

# なぜ日本語を学ぶのか

湘南白百合学園中学校 3年 きむら あやか 木村 彩花

私は、小学生の頃読解テストで良い点数が取れなかったときに、ふと思ったことがある。なぜ日本に住んでいて日本語を知っている日本人なのに日本語を勉強しているのか。

しかし、今はこう思う。日本人なのだから日本語を学ぶ必要がない、ではなく逆に、日本人だからこそ日本語を学ぶべきだと思う。日本語は奥が深く、複雑でとても難しい。けれども、その中にはたくさんの美しさや、面白さがある。日本の四字熟語は魅力的だと思う。例を挙げてみる。例えば、花鳥風月、一期一会。これは、日本で暮らしていればだれもが一度は耳にしたことがあるような有名な四字熟語だろう。花鳥風月は、美しい自然の風景や、それを重んじる風流を意味している。これはまるで日本の自然そのものを表しているように私は思う。それぞれの漢字が一文字だけでも美しい自然を表しているのに、四つ合わさってさらに美しく、華麗になっている。漢字四文字でこんなに美しい意味を表せるのは素晴らしいと思う。そして、一期一会は、生涯に一回しかないと考えて、そのことに専念する意という意味の四字熟語だ。たとえこの、一期一会の意味を知らなかったとしても四字熟語を見れば意味が何となくわかりそうである。

このような感じで、美しく面白い四字熟語だが、慣用句もまた、趣があって良いものだと私は思う。猫に小判や豚に真珠など、動物の名前が使われている慣用句は、意味が分かりやすく、その場の情景が思い浮かべやすい。そのような四字熟語や慣用句は、本を読んでいるとよく使われている。これによって、より本の世界に浸ることができる。もっと語彙についてたくさん知りたい、と。また、本によっては仮名表現にこだわっているものもある。例えば、「ふわふわ」だ。「フワフワ」とは印象が異なる。同じ擬態語でもひらがなとカタカナでは、ひらがなの方がやわらかく感じる。これは一見、小さな違いに見えるが、日本語としては全然違うものだなと思う。だから私は、日本語は英語よりも一つの言葉にたくさんの意味があるもの

だと考えている。これは日本の誇りと言えるのではないか。そのような難しい日本語だからこそ学ぶべきことがあると思う。基本的な敬語の使い方や接続詞から、応用的な熟語までをしっかりと理解をして、正しい日本語でコミュニケーションを相手と取れるようにするべきだ。私が今できることとしては、本をたくさん読み、辞書をたくさん開いてみることだと思う。こうやって、これからもっともっと正しくたくさんの日本語を習得していきたい。

小学生の時に、国語を学ぶことに意義を感じる事ができなかったのは、その時国語の楽しさが分かっていたからだと思う。本を読みはじめて、今まで知らなかったいろいろな言葉の意味をわかってからは、国語を学ぶ意味、そして楽しさがよく分かったような感じがある。本を読んだことによって、私の人生の価値観を変えられた。日本語は、人の心を動かす大きなものだと思う。